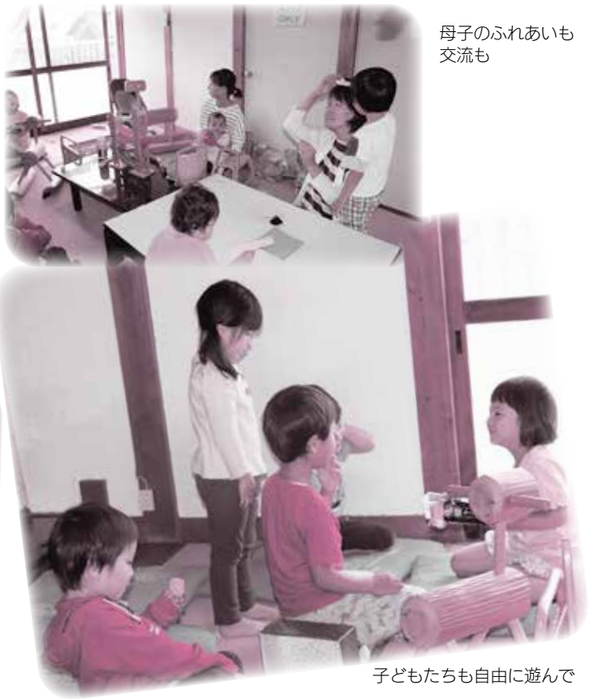
助け合ってほっこりする居場所をつくろう

手しごとの会「くつろぎひろば」（市民提案型まちづくり支援事業）

子どもはかわいい、大好き でも、母子ぼっちじゃさびしい



母子のふれあいも交流も

子どもたちも自由に遊んで

時間を忘れる手しごとで作ったフェルト玩具や折り紙作品

母子ぼっちをなくして楽しい居場所をつくろう

手しごとの会は、子育て中のお母さんが互いに助け合いながらほっこりできる居場所をつくろう、と7年前にできたグループです。

発起人は幼稚園のママ友5人。結婚して守山に来た若いお母さんたちに友達や知人は少なく、わが子を幼稚園に送った後、小さな弟や妹を連れて行く場所がなかったといいます。それなら、自分たちで居場所をつくろうということになりました。

発起メンバーの中に、手先が器用で手芸の得意な仲間がいて、子どもを見ながらでもできる簡単な手芸工芸やダーニング（衣服の穴やほころびのつくろい）を楽しもうと発案したのが「手しごとの会」の由来でした。

市が主催する子育て支援の行事やイベントはあっても、すでに出来上がっている人間関係に入っていくのは気おくれしてしまうというお母さん。ちっちゃい子どもを連れて一度帰宅するのもなんだかな～、と思ってしまうお母さん。

手しごとの会は、そんな母子ぼっちの時間を解消して、のんびり楽しく過ごせる「くつろぎひろば」やワークショップなどを主催しています。

お母さんも子どもも自由にやりたいことができる

手しごとの会が主催する「くつろぎひろば」は、空き家を活用した保育施設の空きスペース（2階）を借りて開催しています。午前中の早い時間は0～3歳くらいの小さな兄妹を連れた母子、遅れて幼稚園帰りの子どもを連れた母子が訪れます。

基本は「自分の子どもを見ながら周りの子どもを一緒に見ている」です。子どもたちは仲良く遊んだり、おもちゃを取り合ったり。危険がなければ、ケンカをしてもできるだけ見守るようにしています。そうすることで、子どもが自分で考えて譲り合ったり、また仲良く遊びはじめたりできます。

この日の「くつろぎひろば」では、絵本の読み聞かせをするお母さんの前に、みんなしゃがんで聞いています。こちらでは、お母さんたちがおしゃべりをしています。あちらでは、サイズの小さくなったきれいな洋服を持ち寄っての交換会をしています。

みんなで食べるランチの後に「手しごと」が始まりますが、参加も出入りも、居場所での過ごし方も自由で、「手しごと」は楽しみ方の一つなのだとか。

子育て中でも社会で活躍 助け合える働き方をしよう

仲間が助け合うことで、メンバーと子育て中のお母さんたちが「孤独にならない」「無理をしない」「心地よく過ごす」時間と場所を創ってきました。

フェルトボールのキーホルダーや自然素材のカゴなど、「手しごと」で製作した作品をマルシェに出品したこともあります。それは、子育て中のお母さんたちの「社会参画したい」「誰かの役に立ちたい」という気持ちのあらわれでした。

手しごとの会を通じて、一部のメンバーはワーカーズコレクティブ（労働者協同組合）という働き方に出会いました。子育て中という同じ環境のメンバーが、資本・経営・労働を自分たちで担って、無理のない働き方で社会で活躍する「子育て助け合いワーカーズたすき星」を今秋立ち上げようと準備中です。

「たすき星」は、そこで働く人も、利用する人もハッピーになれる託児室「とまり木」と、家庭の食卓を少しだけお手伝いする総菜の提供を行うそうです。託児室はすでに試験的に事業を始めているとのことです。

「手しごとの会」は、市の市民提案型事業の採択を受けて活動を続けています。同じような、子育てママ同士の小さな居場所づくりは、市内や近隣にも広がってきているそうです。子育て中のお母さんも、子育てと仕事を両立したいお母さんも、笑顔で毎日過ごせるまちを目指して活動していきたいとしています。

小さい子も幼稚園帰りの子も、ママと仲間と一緒のランチタイム

自分の子も仲間の子も一緒に見守り

手しごとの会の皆さん：左から叶谷 明日香さん、桃谷 香葉さん（たすき星準備会 代表）、三重 有美子さん（手しごとの会 代表）、田中 恵美さん

メンバーが持ち寄った子ども服の交換会